

N E C

Express5800 シリーズ

ESMPRO[®]/ACBlade 管理オプション

Ver5.0

UL1046-404

UL1046-H404

UL1046-J404

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/ACBlade 管理オプション Ver5.0をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。 ESMPRO/ACBlade 管理オプション Ver5.0をお使いになる前に、必ずお読みください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

CLUSTERPRO、ESMPROは、日本電気株式会社の登録商標です。

Smart-UPS、PowerChute、APC は、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標または商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

目次

第1章	製品内容.....	4
第2章	セットアップの準備.....	5
2.1	ESMPRO/ACBlade 管理オプションのセットアップ環境.....	5
2.2	Express5800/BladeServer へのセットアップに関して.....	7
2.3	Express5800/BladeServer のHW セットアップに関して.....	8
第3章	セットアップの方法.....	10
3.1	ESMPRO/ACBlade 管理オプションのインストール.....	10
3.2	ESMPRO/ACBlade 管理オプションのアンインストール.....	16
第4章	Express5800/BladeServer をマルチサーバ構成へ登録.....	21
4.1	インストール済みのAC サービスと連携しての登録.....	21
4.2	サーバの手動登録.....	25
第5章	Express5800/BladeServer を使ったマルチサーバ構成例.....	29
5.1	構成例 (1)	29
5.2	構成例 (2)	30
5.3	構成例 (3)	31
5.4	構成例 (4)	32
5.5	構成例 (5)	33
第6章	DeploymentManager を使ったインストール方法.....	34

第 1 章 製品内容

ESMPRO/ACBlade 管理オプション Ver5.0のパッケージの内容は、製品同梱の「構成
品表」に含まれています。

添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

第2章 セットアップの準備

ESMPRO/ACBlade 管理オプションは ESMPRO/AutomaticRunningController、ESMPRO/AC Enterprise のオプション製品です。ESMPRO/ACBlade 管理オプション Ver5.0 をご使用になるためには、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0、ESMPRO/AC Enterprise Ver5.0 も併せてセットアップが必要です。

2.1 ESMPRO/ACBlade 管理オプションのセットアップ環境

ESMPRO/AC管理オプションをセットアップするためには、次の環境が必要です。

① ハードウェア

<サーバ>

- ・対象機種 : Express5800シリーズ、iStorage NSシリーズ
- ・メモリ : 2.5MB以上
ESMPRO/AutomaticRunningController、
ESMPRO/AC Enterpriseと合計すると6.0MB以上 ※1
- ・固定ディスクの空き容量: 3.0MB以上
ESMPRO/AutomaticRunningController、
ESMPRO/AC Enterpriseと合計すると22.0MB以上

※1 連動端末にVMware ESXiを登録した場合、6.0MB+40MB以上のメモリが必要となります。

<クライアント>

- ・対象機種 : PC98-NXシリーズ、PC-AT互換機、Express5800シリーズ
- ・メモリ : 2.5MB以上
- ・固定ディスクの空き容量: 7.0MB以上

② ソフトウェア

<サーバ>

Windows Server 2012 R2 Standard/Datacenter
Windows Server 2012 Standard/Datacenter
Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
Windows Server 2008 Standard/Enterprise
Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server
Windows Server 2003
Standard Edition/Enterprise Edition/Datacenter Edition/Small Business Server
Windows Storage Server 2008 R2
Windows Storage Server 2008
Windows 8 Pro
Windows 7 Professional
Windows Vista Business
Windows XP Professional

<クライアント>

Windows Server 2012 R2 Standard/Datacenter
Windows Server 2012 Standard/Datacenter
Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise
Windows Server 2008 Standard/Enterprise
Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server
Windows Server 2003
Standard Edition/Enterprise Edition/Datacenter Edition/Small Business Server
Windows 8 Pro
Windows 7 Professional
Windows Vista Business
Windows XP Professional

*AMC(AC Management Console)機能によりマルチサーバ構成で制御される被制御サーバ(連動サーバ)には、ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションがセットアップされている必要があります。

連動サーバがExpress5800/BladeServerシリーズの場合は、連動サーバにはESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションがセットアップされている必要があります。

最新の動作環境については、本製品のご紹介サイトでご確認ください。URL 情報は製品添付品をご確認ください。

2.2 Express5800/BladeServerへのセットアップに関して

Express5800/BladeServerへESMPRO/ACBlade 管理オプション、ESMPRO/AutomaticRunningController、ESMPRO/AC Enterpriseをセットアップする方法として、2通りの方法があります。ご利用の環境に応じて選択してください。

- I. WebSAM DeploymentManager(以降、DeploymentManager と記載)のアプリケーションの自動インストール機能を利用して、OS インストール時に自動インストールする方法。
 - 「第6章 DeploymentManager を使ったインストール方法」の項を参照してください。
ESMPRO/ACBlade 管理オプション、ESMPRO/AutomaticRunningController、ESMPRO/AC Enterprise を一括して OS インストール時にモジュールをインストールできます。
- II. Express5800/BladeServer に CRT、キーボード、マウス、CD-ROM ドライブを接続してローカルインストールする方法。
 - 「Express5800/BladeServer シリーズ ユーザーズガイド」を参照して、Express5800/BladeServer に CRT、キーボード、マウス、CD-ROM ドライブを接続し、Express5800/BladeServer から CD-ROM ドライブがアクセス可能な状態にします。
その後「第3章 セットアップの方法」に従ってセットアップしてください。

2.3 Express5800/BladeServerのHWセットアップに関して

(1) システムBIOSの設定に関して

Express5800/BladeServerをESMPRO/AutomaticRunningController製品群で自動運転するために必要な設定を行ってください。

システムBIOSの変更方法に関しては、Express5800/BladeServerシリーズ本体装置に添付のマニュアルを参照してください。

(ア)AC-LINKの設定

ブレード収納ユニットにUPS装置を接続し、Express5800/BladeServerへESMPRO/ACBlade 管理オプションをインストールして制御サーバとして使用する場合は、[Power On]を設定します。

Express5800/BladeServerへESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションをインストールし、連動サーバとして使用する場合は、[Stay OFF]を設定します。

(イ)リモートパワーオンの設定

Wake On LANによる起動ができるように、BIOS設定においてWake On LANの設定を有効にしてください。サーバ基盤表面などに貼られた MAC addressを記載したシール、またはDeploymentManagerの設定情報などを確認して、MAC addressを確認/控えておいてください。

(2) 制御サーバと連動サーバ間のネットワーク接続に関して

リモートパワーオンが有効なLANポートにて制御サーバと連動サーバ間のネットワークを接続してください。また、リモート管理モジュールをインストールした管理マシンからリモートでサーバ起動を行う場合は、管理マシンから接続されているネットワークをリモートパワーオンが有効なLANポートに接続します。

(3) Express5800/BladeServerの収納位置を識別する位置情報に関して

ESMPRO/ACBlade 管理オプションでは、Express5800/BladeServerの収納位置を識別する位置情報として、以下の情報を使用します。

(ア) ラック番号

→ ブレード収納ユニットを格納するラックを識別する番号を指します。
1 から 16 の値を使用します。
ラックごとに重ならないように設定します。

(イ) ブレード収納ユニット番号

→ ブレード収納ユニットを識別する番号(*)を指します。
1 から 16 の値を使用します。
* ブレード収納ユニットを識別する番号は、ブレード収納ユニット前面右端に位置する筐体 ID スイッチ(ロータリスイッチ)が指す値(0 から F)を 10 進数に変換後、1 を加算した値を使用します。
例：ロータリスイッチの値が 0 の場合、1
ロータリスイッチの値が F の場合、16
なお、SIGMABLADE のブレード筐体など、筐体 ID スイッチ(ロータリスイッチ)が存在しないブレード収納ユニットを使用する場合は、他のブレード筐体のユニット番号と重複しない、1～16 の任意の数字を割り当ててください。

(ウ) スロット番号

→ CPU ブレードを挿入したスロット位置を指します。

「第 4 章 Express5800/BladeServerをマルチサーバ構成へ登録」において、以下の画面で Express5800/BladeServerの位置情報の設定、確認が必要になりますので、セットアップを始める前に確認願います。

ESMPRO/ACBlade サーバ情報

位置情報
ラック 1
ブレード収納ユニット 1
スロット 1
ESMPRO/DeploymentManager からの読込

サーバ種別 Windowsサーバ
名称 BLADE-11
ドメイン名

注意：Express5800/BladeServer以外のサーバの場合は、ラック：255、ブレード収納ユニット：255、スロット：255を入力します。

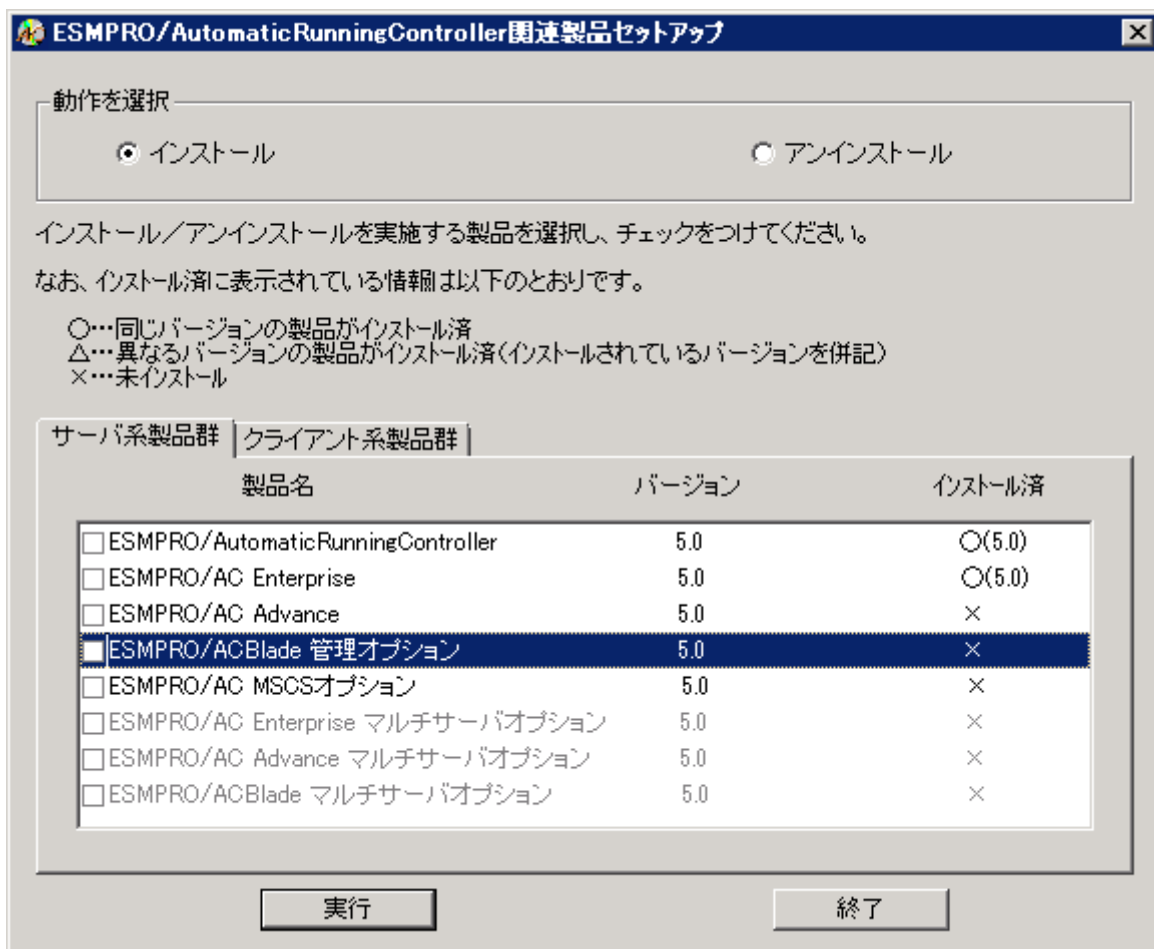
第3章 セットアップの方法

3.1 ESMPRO/ACBlade 管理オプションのインストール

注意

DeploymentManagerのアプリケーションの自動インストール機能を使用してESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバ系製品)をインストールする場合、「第6章 DeploymentManagerを使ったインストール方法」を参照してください。

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.0』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- (2) CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。



(3) 「ESMPRO/ACBlade 管理オプション」のセットアップには「サーバ系製品」と「クライアント系製品」があります。

- ◆ ESMPRO/ACBlade 管理オプションのサーバ系製品をインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/ACBlade 管理オプションを選択し、チェックを有効にします。

ESMPRO/AutomaticRunningController関連製品セットアップ

動作を選択

☒ インストール ☐ アンインストール

インストール／アンインストールを実施する製品を選択し、チェックをつけてください。

なお、インストール済に表示されている情報は以下のとおりです。

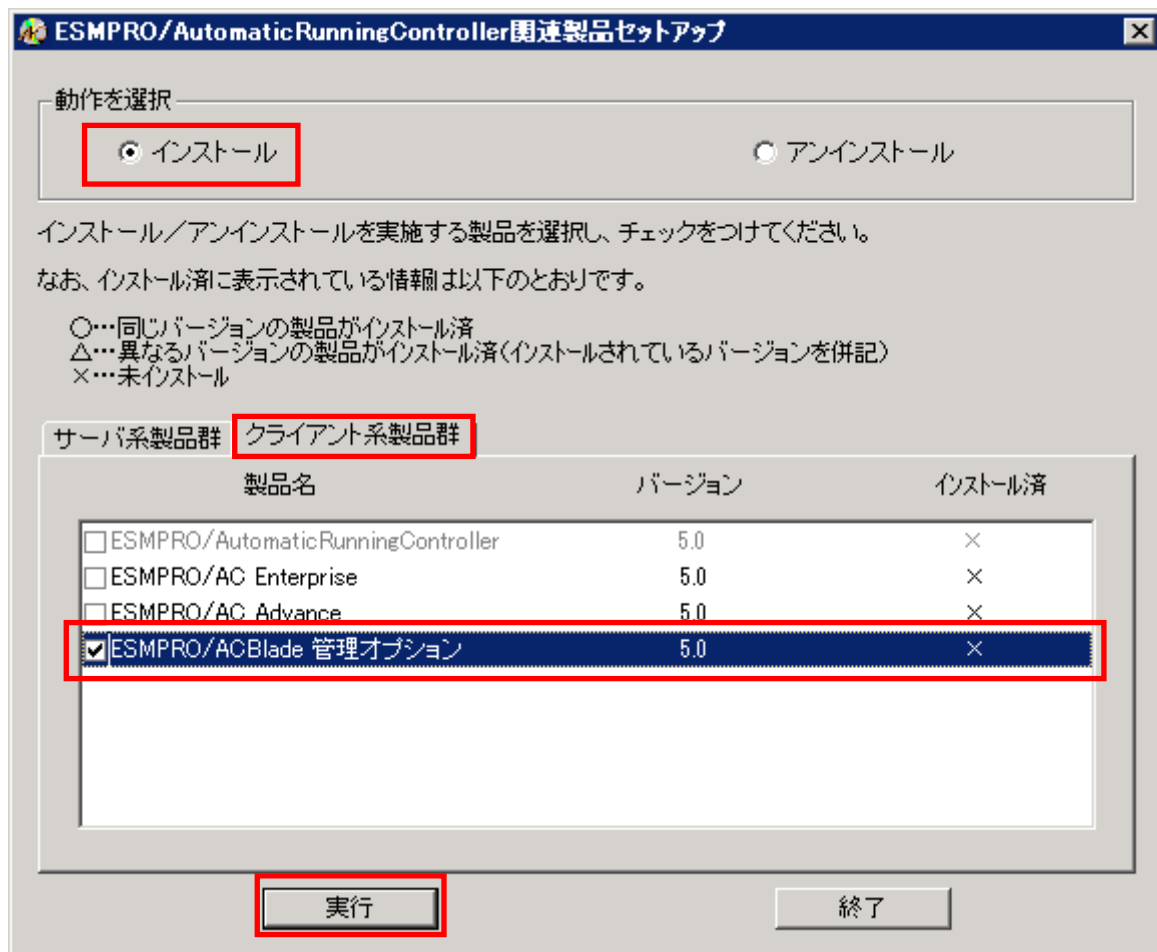
○…同じバージョンの製品がインストール済
△…異なるバージョンの製品がインストール済(インストールされているバージョンを併記)
×…未インストール

サーバ系製品群 クライアント系製品群

製品名	バージョン	インストール済
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AutomaticRunningController	5.0	○(5.0)
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC Enterprise	5.0	○(5.0)
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC Advance	5.0	×
<input checked="" type="checkbox"/> ESMPRO/ACBlade 管理オプション	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC MSCSオプション	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプション	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプション	5.0	×

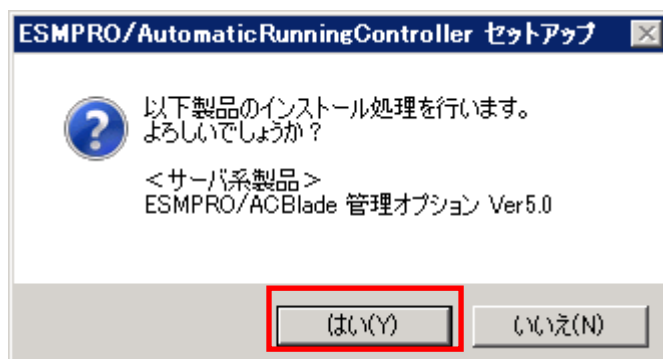
実行 終了

- ◆ ESMPRO/ACBlade 管理オプションのクライアント系製品をインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、クライアント系製品群タブの中からESMPRO/ACBlade 管理オプションを選択し、チェックを有効にします。

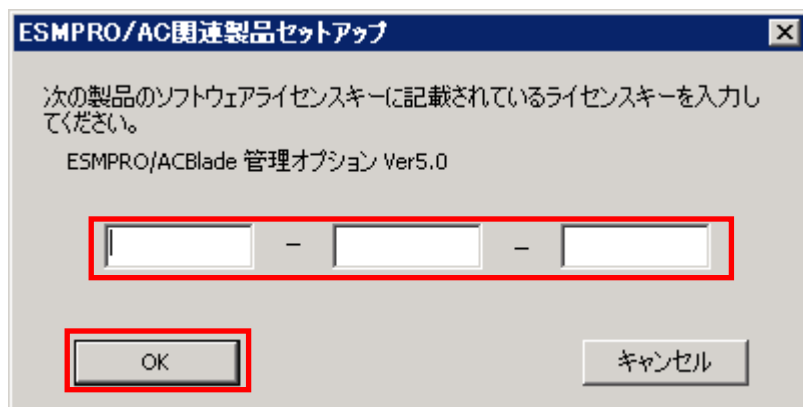


(4) 「実行」ボタンを選択します。

(5) 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

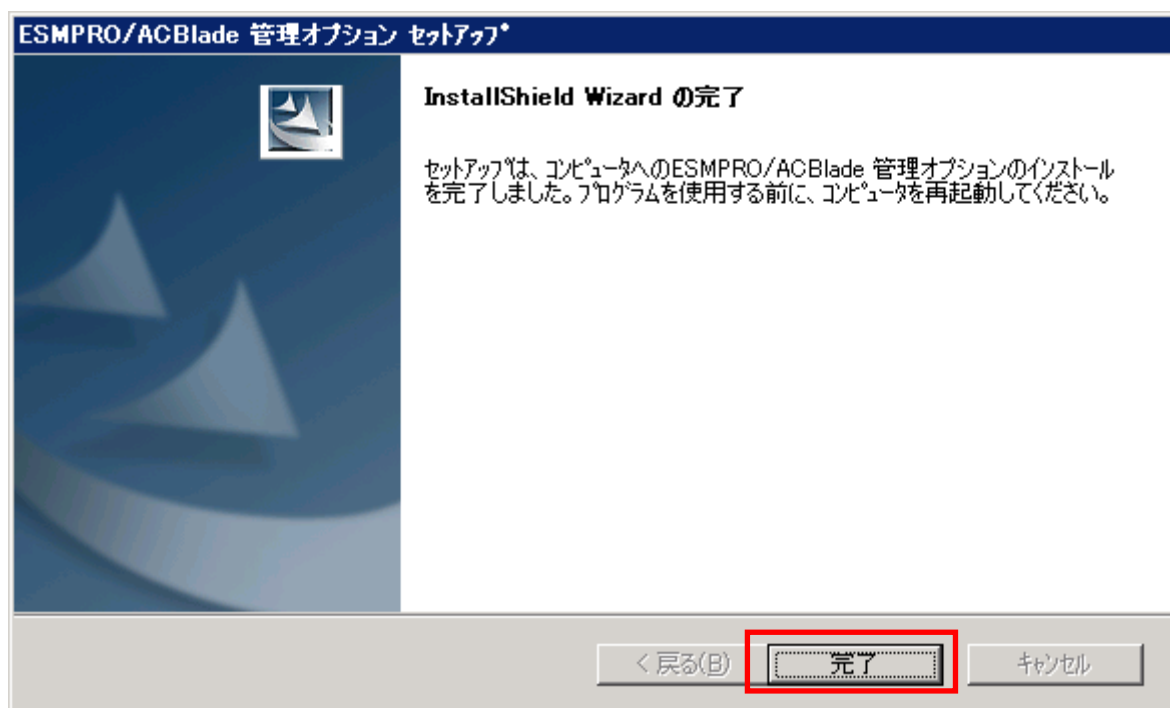


- (6) サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。



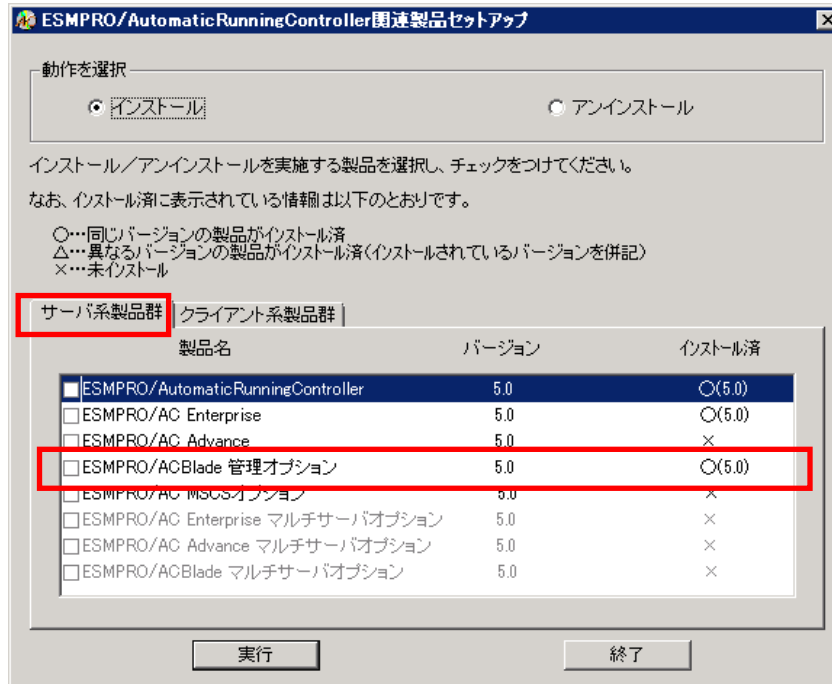
- (7) ファイルの転送が開始されます。

- (8) 次の画面が表示されたら、インストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

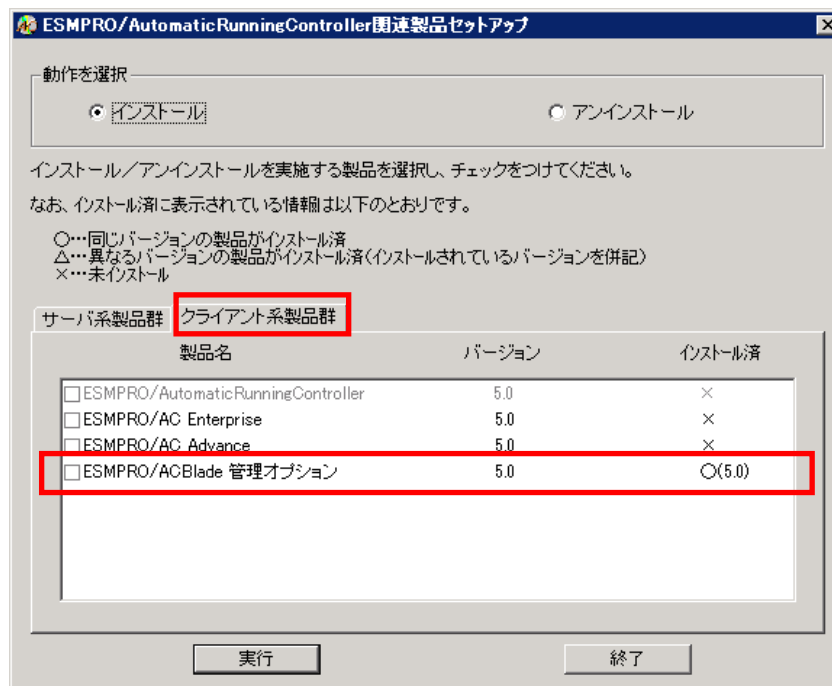


- (9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/ACBlade 管理オプションのインストール済欄に○およびバージョンが表示されていることを確認します。

＜サーバ系製品インストール後の画面＞



＜クライアント系製品インストール後の画面＞



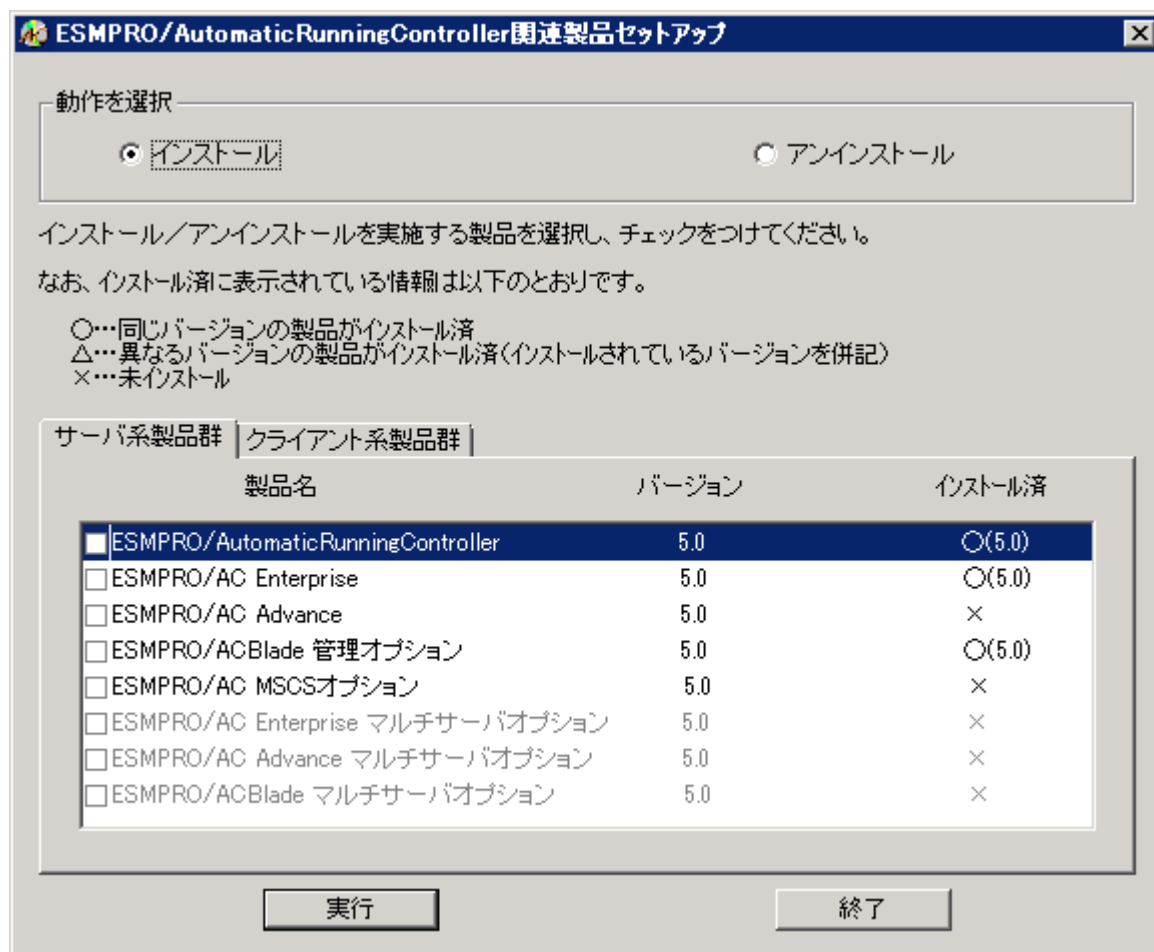
ESMPRO/ACBlade管理オプションクライアントツールの使用方法については、スタートメニューの[ESMPRO_ACB_E Client]→[マルチサーバ構成データ編集]を起動した後の「ヘルプ」にてご確認ください。

注意

- ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0 および ESMRO/AC Enterprise 5.0 がセットアップされていない場合は、セットアップを一度終了してください。
その後、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0 および ESMRO/AC Enterprise 5.0 のセットアップを行った後、再度本セットアップを実行してください。
- インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。
- バージョンアップセットアップでは、これまでの運用で設定した情報を保持したまま、モジュールのコピーを行います。
- セットアップの実行中に<終了>及び<キャンセル>ボタンを押すと、セットアップ中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで<終了>ボタンを押すと、セットアップは中止されます。その場合、途中まで転送されたファイルの削除は行われませんのでご注意ください。
- Windows ファイアウォール機能が有効な環境において利用する場合、Windows ファイアウォールの設定画面の[例外]タブの「プログラムの追加」から"AC Management Console"のプログラム(amc.exe)および"AC_B_DEP.exe"のプログラムを登録してください。

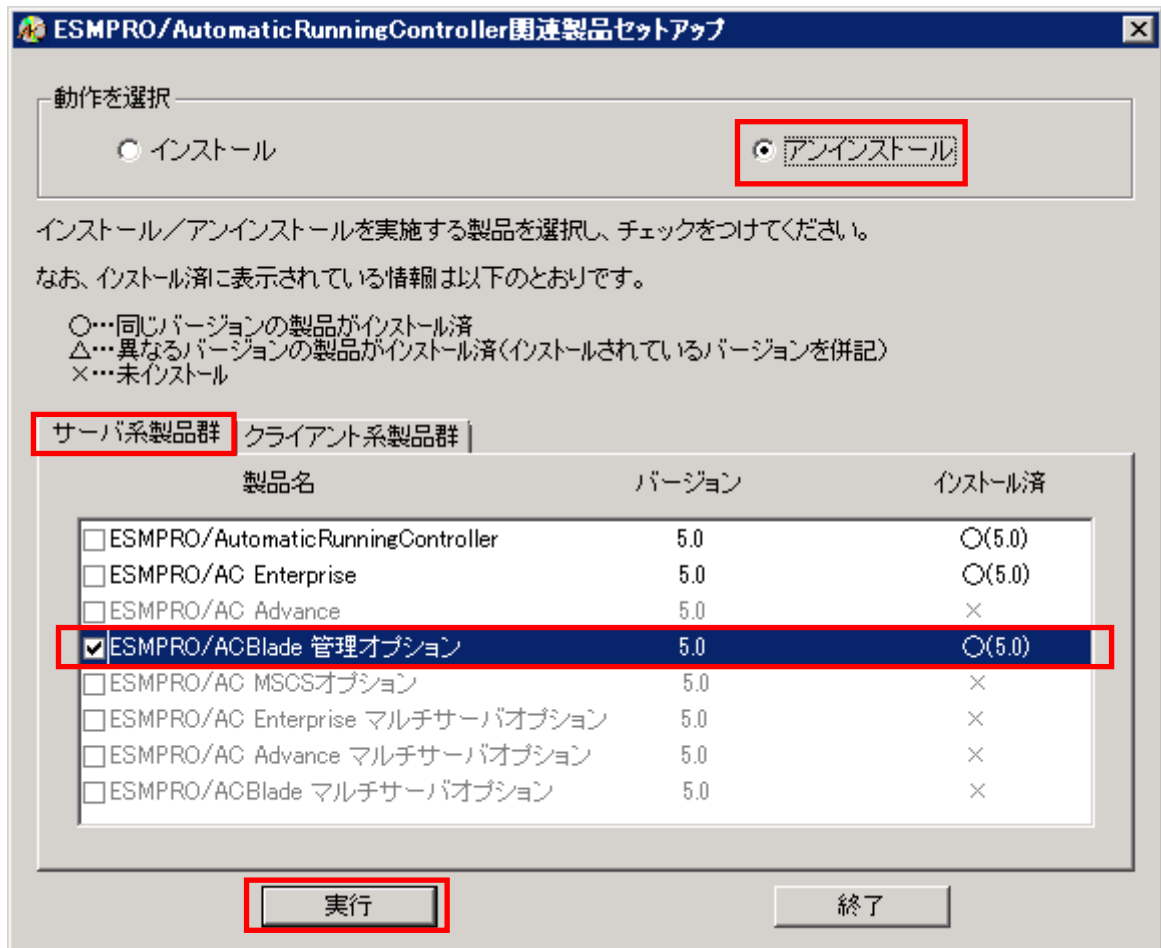
3.2 ESMPRO/ACBlade 管理オプションのアンインストール

- (1) インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.0』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。
- (2) CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

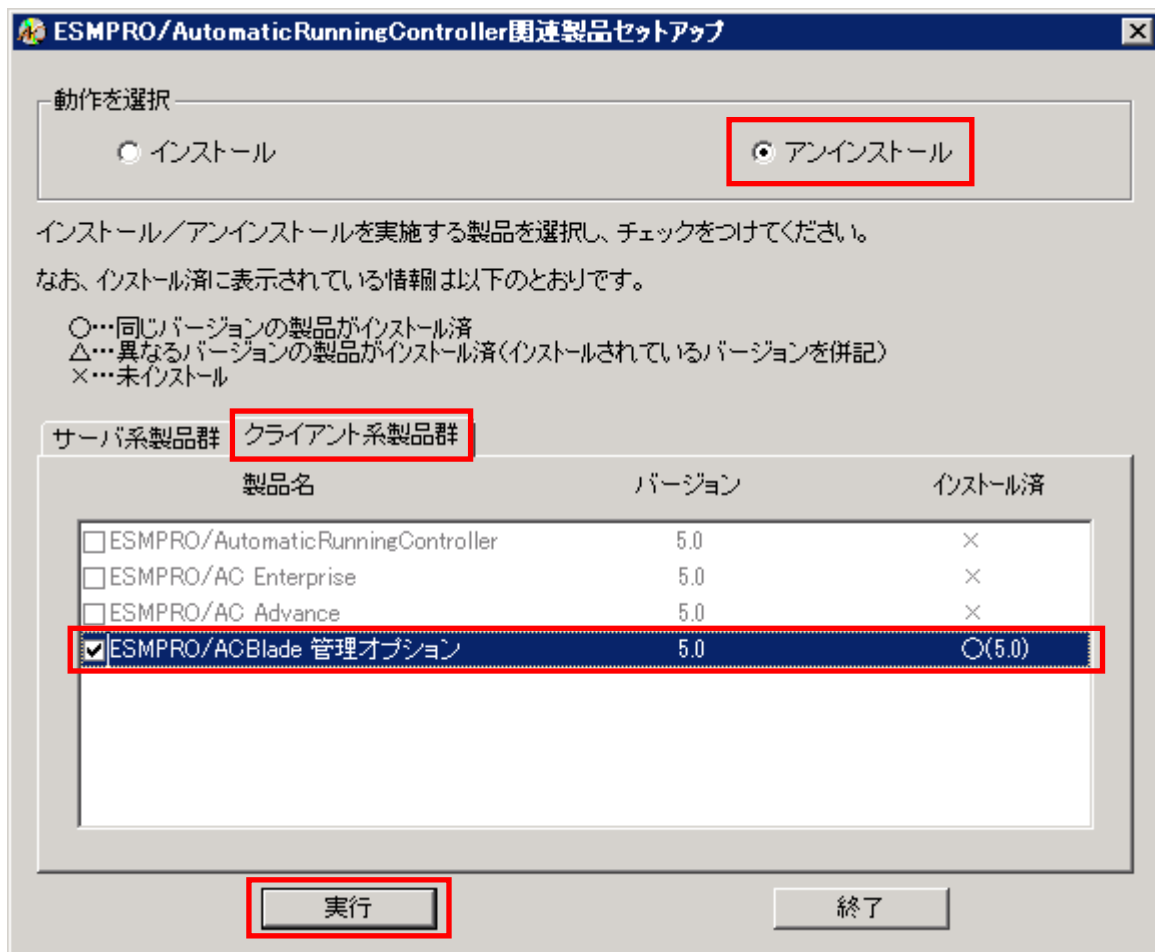


(3) 「ESMPRO/ACBlade 管理オプション」のセットアップには「サーバ系製品」と「クライアント系製品」があります。

- ◆ ESMPRO/ACBlade 管理オプションのサーバ系製品をアンインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/ACBlade 管理オプションを選択し、チェックを有効にします。

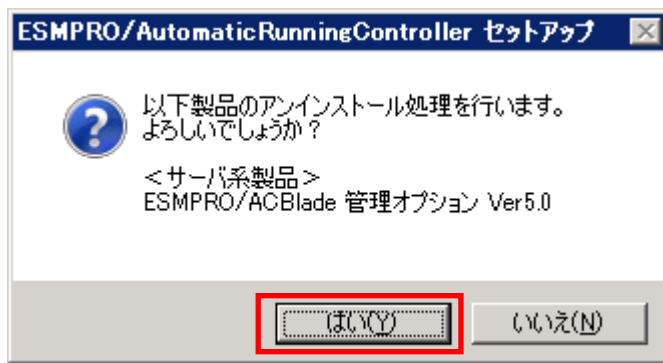


- ◆ ESMPRO/ACBlade 管理オプションのクライアント系製品をアンインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、クライアント系製品群タブの中からESMPRO/ACBlade 管理オプションを選択し、チェックを有効にします。

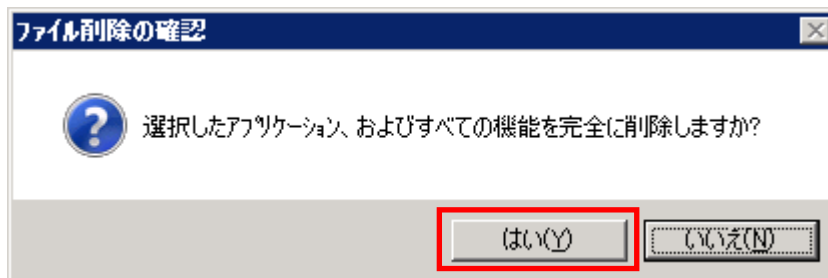


- (4) 「実行」ボタンを選択します。

(5) 選択した製品のアンインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。

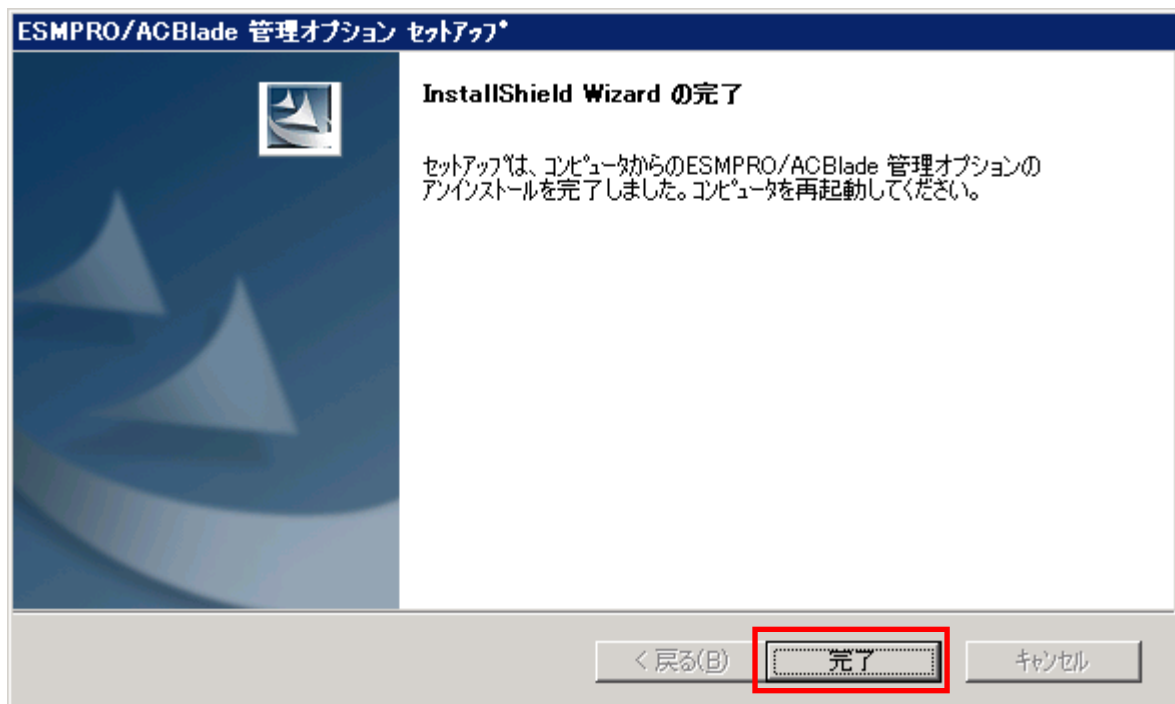


(6) インストーラが起動され、もう一度確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



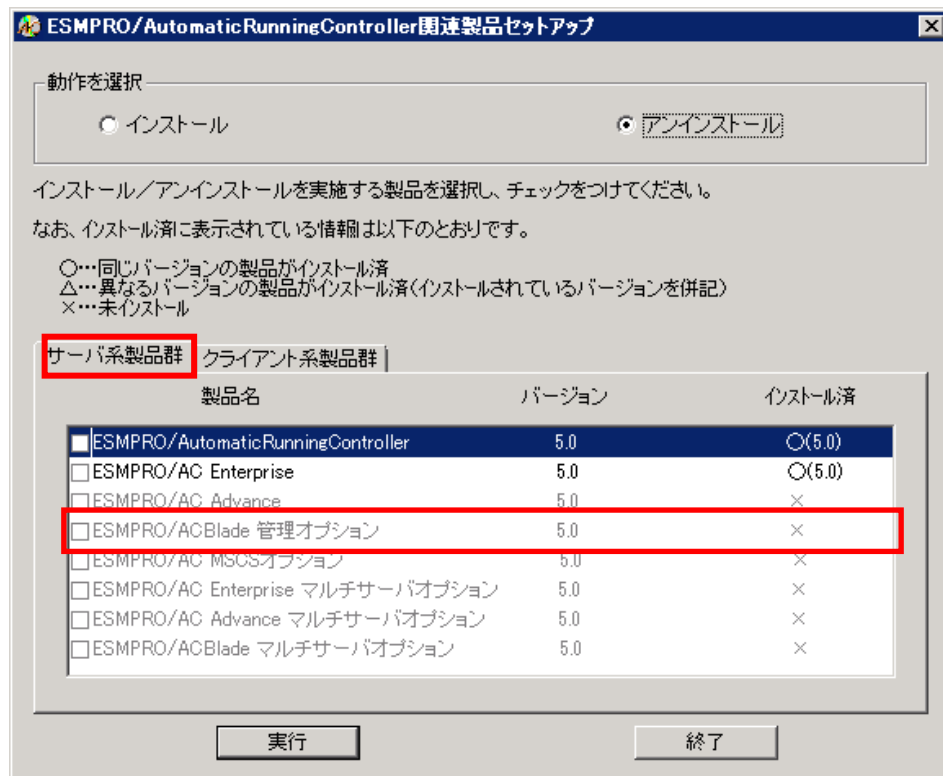
(7) ファイルの削除が行われます。

(8) 次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

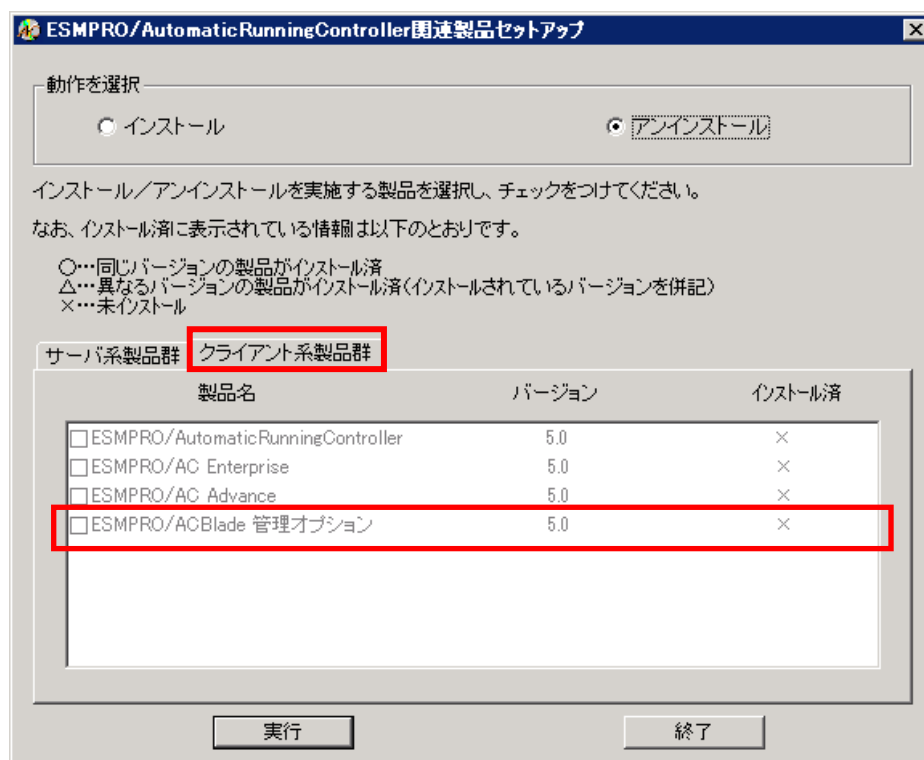


(9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/ACBlade 管理オプション のインストール済欄に×が表示されていることを確認します。

＜サーバ系製品アンインストール後の画面＞



＜クライアント系製品アンインストール後の画面＞



(10) アンインストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

第4章 Express5800/BladeServer をマルチサーバ構成へ登録

Express5800/BladeServer を AMC (AC Management Console) で管理するマルチサーバ構成へ登録する方法を説明します。

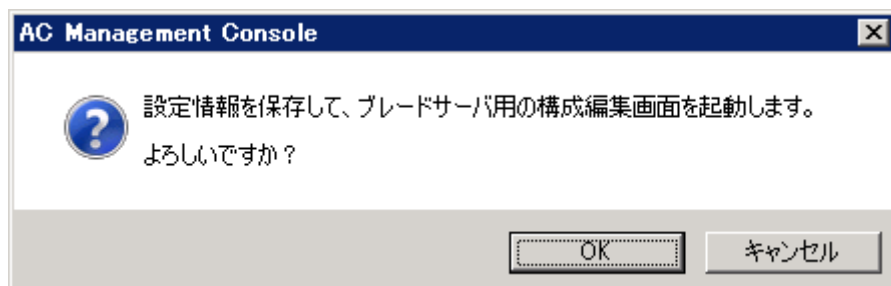
4.1 インストール済みのACサービスと連携しての登録

ESMPRO/ACBlade 管理オプション (サーバモジュール) をインストールした制御サーバ、または ESMPRO/ACBlade 管理オプション (リモート管理モジュール) をインストールしたリモート管理マシンで行います。

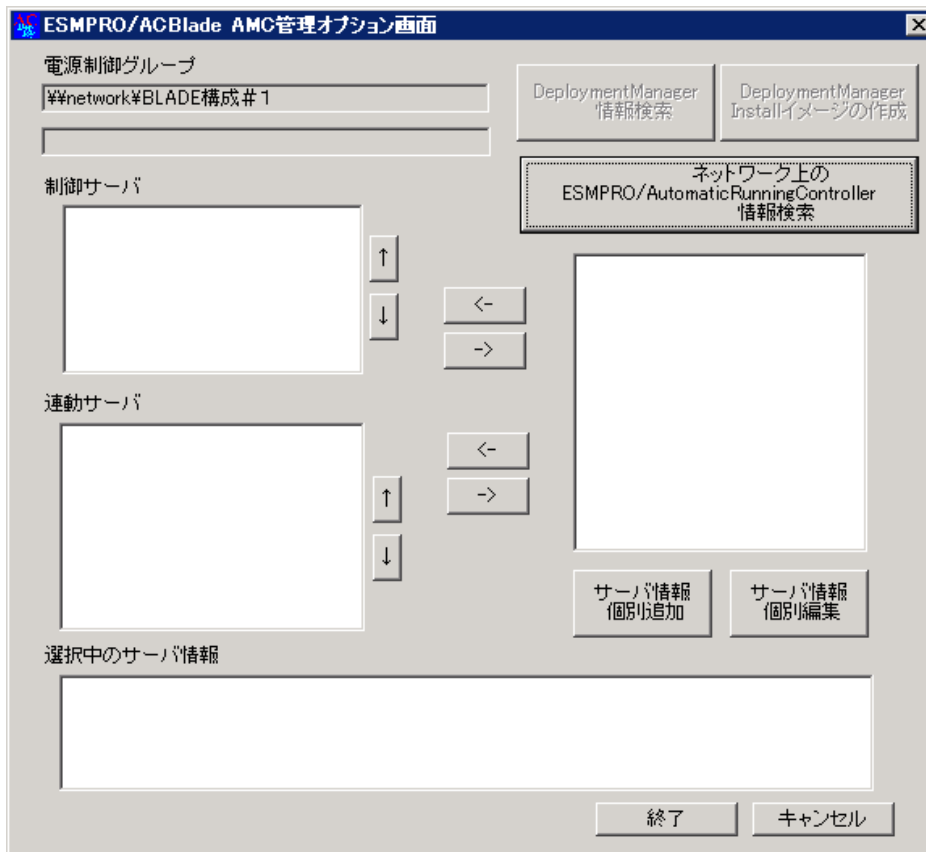
予め、登録する Express5800/BladeServer には ESMPRO/ACBlade 管理オプション (サーバモジュール)、または ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションをインストールしておきます。

もしインストールされていない状態で行う場合は、(2) の画面で [サーバ情報個別追加] ボタンを押すと、[ESMPRO/ACBlade サーバ情報] 画面を表示されますので、空欄部分を入力することで登録作業を行うことは出来ます。

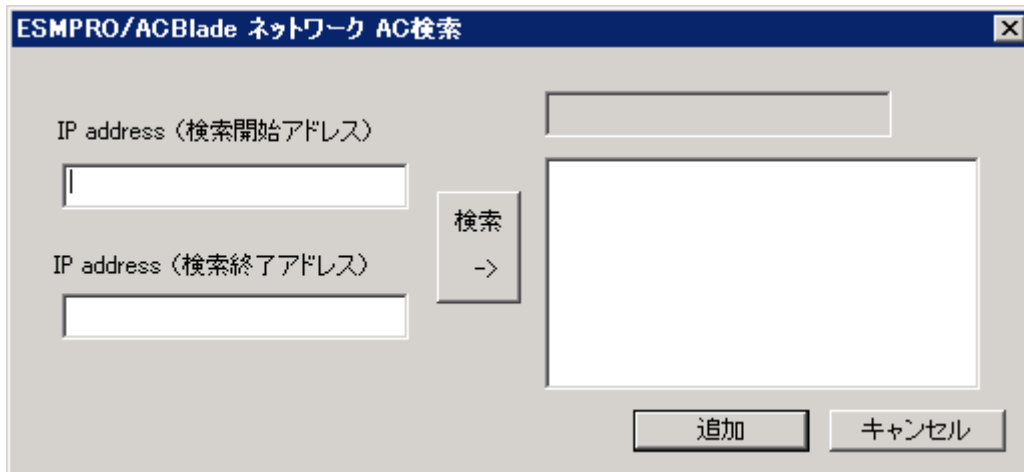
- (1) ESMPRO/ACBlade 管理オプション (サーバモジュール) がインストールされている場合は、[スタート] → [プログラム] → [ESMPRO_AutomaticRunningController] → [AC Management Console] を選択して、AMC を起動し、[編集] → [電源制御グループ作成] で Express5800/BladeServer を登録する電源制御グループを作成します。
リモート管理モジュールがインストールされている場合は、[スタート] → [プログラム] → [ESMPRO_ACB_E Client] → [マルチサーバ構成データ編集] → [AC Management Console の起動] を選択して、AMC を起動して Express5800/BladeServer を登録する電源制御グループを作成します。
- (2) 電源制御グループを右クリックして表示されるメニューから、[ブレードサーバ構成編集] を選択すると、以下の画面が表示されます。



「OK」 ボタンを選択すると、AMC が終了し、[ESMPRO/ACBlade AMC 管理オプション画面] が表示されます。



- (3) [ネットワーク上のESMPRO/AutomaticRunningController情報検索]ボタンを選択すると、[ESMPRO/ACBlade ネットワーク AC検索]画面が表示されます。



ESMPRO/ACBlade 管理オプションまたはESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションをインストールしたExpress5800/BladeServerのIPアドレスの範囲を指定し、[検索]ボタンを押して検索します。
検出に成功したサーバのコンピュータ名が、右側に一覧表示されます。

- (4) (3) の検索したコンピュータ名を選択して、[追加]ボタンを押します。
[ESMPRO/ACBlade ネットワークAC検索]画面が閉じ、[ESMPRO/ACBlade AMC管理オプション画面]に戻ります。[ESMPRO/ACBlade AMC管理オプション画面]の右側に追加したコンピュータ名が表示されます。
- (5) この電源制御グループに登録するコンピュータ名を選択し、[サーバ情報個別編集]ボタンをクリックして、[ESMPRO/ACBlade サーバ情報]画面を表示します。

- (6) 位置情報の[ラック]にラック番号を1～16の値を入力します。
ラック番号はブレード収納ユニットを格納するラックを識別するための番号です。
位置情報の[ブレード収納ユニット]、[スロット]と[MAC address]を入力します。位置情報はHWのセットアップ情報等を基に入力してください。
- (7) サーバ種別を選択して、名称（コンピュータ名）、IP addressを入力してください。
- (8) MAC addressはIP addressに割り当てられたMACアドレスを入力してください。
MAC addressは「 00-00-4c-71-00-01 」のように、数値の間を「-」で区切ってください。
連動サーバの起動は、制御端末からWake On LANパケットを受信して行われます。
この際、制御端末から連動端末へのWake On LANパケットは、ブロードキャスト・アドレス宛に送信されます。このため、制御端末の監視対象となる連動端末は、制御端末と同じネットワークセグメントで構築されている必要があります。
また、AFT(アダプタ・フォールト・トレラント)によるチーミング設定またはvIO による仮想MAC の設定を行っている場合、いずれかの物理的なMAC addressを登録する必要があります。物理MAC addressと異なるユニークなMAC アドレスを割り当てた場合、Wake On LAN による運用は行えません。
- (9) シナリオ情報(Install)の設定値は“サーバ種別”を選択した際に自動設定される値から変更しないでください。
- (10) シナリオ情報(設定パラメータ)のネットワーク情報の空欄部分を入力します。
- (11) [ESMPRO/ACBlade サーバ情報]画面の[OK]ボタンをクリックして、[ESMPRO/ACBlade AMC管理オプション画面]に戻った後、制御サーバまたは連動サーバに割り振ります。
画面中央にある上の[<-]ボタンをクリックすることで制御サーバに、下の[<-]ボ

タンをクリックすることで連動サーバに割り振ることが出来ます。

→ ESMPRO/ACBlade 管理オプションをインストールしたサーバ(選択中のサーバ情報に「Blade管理」と表示)は制御サーバに移動します。

→ ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションをインストールしたサーバ(選択中のサーバ情報に「Bladeマルチサーバオプション」と表示)は連動サーバに移動します。

- (12) 検出したExpress5800/BladeServerに対して、(6) から (11) の操作を行った後、[終了]ボタンをクリックすると、以下の画面が表示され、[はい]をクリックすると、AMCの画面が起動されます。



- (13) 異なる電源制御グループにExpress5800/BladeServerを登録する場合は、新たに電源制御グループを作成し、(2) から (12) の操作を行います。
- (14) システム構成に応じて、UPS装置、Express5800/BladeServer以外のExpressサーバ、連動装置の登録を行います。これらの装置の登録方法に関しては「ESMPRO/AC Enterprise Ver5.0 セットアップカード」を参照願います。
- (15) AMC画面で[ファイル]→[設定保存]を選択して、設定情報を保存します。
- (16) ESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)がインストールされており、制御サーバとして使用する場合は、OSを再起動します。
(19)に進みます。
- (17) ESMPRO/ACBlade 管理オプション (リモート管理モジュール)だけがインストールされている場合は、AMCを終了すると、マルチサーバ構成データ編集ツールが表示されます。
マルチサーバ構成データ編集ツールの[編集データファイルの送信/受信]ボタンをクリックして、ESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)がインストールされているサーバに、マルチサーバ構成ファイル(ac_e_net.cfg)を送信します。マルチサーバ構成データ編集ツールの操作方法はマルチサーバ構成データ編集ツールのヘルプを参照願います。
- (18) マルチサーバ構成ファイル(ac_e_net.cfg)を受け取ったESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)がインストールされているサーバのOSを再起動します。
- (19) ESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)がインストールされているサーバでAMCを起動し、Express5800/BladeServerの状態表示が「マスタ動作中」または「通常運用中」であれば登録が完了です。

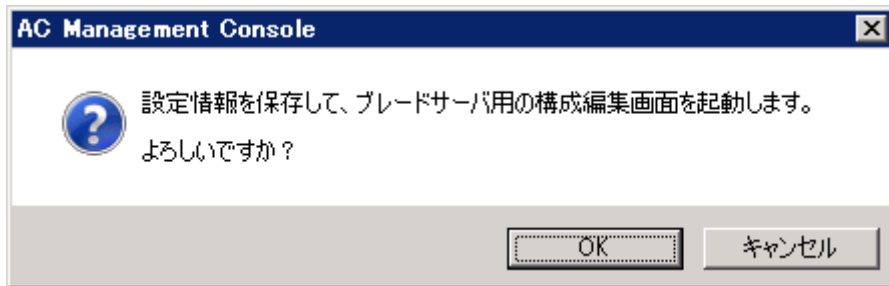
注意:

DeploymentManager を使用して制御端末の自動インストールを行った場合、制御端末のライセンスが登録されておりません。制御端末のライセンス登録は、スタートメニューの[すべてのプログラム] → [ESMPRO/AutomaticRunningController]→[ESMPRO_AC ライセンス]から別途行う必要があります。

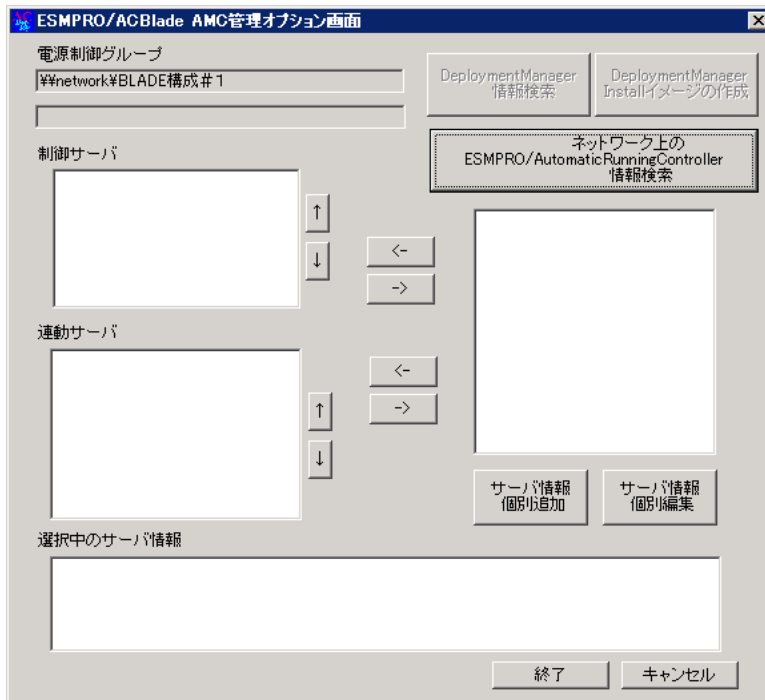
4.2 サーバの手動登録

ESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)、または ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションをインストールしていないサーバについては、AC サービスとの連携を利用した登録ができないため、以下の手順で手動登録してください。

- (1) ESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール) がインストールされている場合は、[スタート]→[プログラム]→[ESMPRO_AutomaticRunningController]→[AC Management Console]を選択して、AMCを起動し、[編集]→[電源制御グループ作成]で Express5800/BladeServerを登録する電源制御グループを作成します。
リモート管理モジュールがインストールされている場合は、[スタート]→[プログラム]→[ESMPRO_ACB_E Client]→[マルチサーバ構成データ編集]→[AC Management Consoleの起動]を選択して、AMCを起動してExpress5800/BladeServerを登録する電源制御グループを作成します。
- (2) 電源制御グループを右クリックして表示されるメニューから、[ブレードサーバ構成編集]を選択すると、以下の画面が表示されます。



「OK」ボタンを選択すると、AMCが終了し、[ESMPRO/ACBlade AMC管理オプション画面]が表示されます。



- (3) [サーバ情報個別追加]ボタンをクリックして、[ESMPRO/ACBlade サーバ情報]画面を表示します。

- (4) 位置情報の[ラック]にラック番号を1～16の値を入力します。
ラック番号はブレード収納ユニットを格納するラックを識別するための番号です。
位置情報の[ブレード収納ユニット]、[スロット]と[MAC address]を入力します。位置情報はHWのセットアップ情報等を基に入力してください。
- (5) サーバ種別を選択して、名称（コンピュータ名）、IP addressを入力してください。

※サーバ種別に「ESXiサーバ」を選択している場合、ユーザ名、パスワード、ドメイン名を登録してください。
登録の際は、大文字、小文字を区別して正確に入力してください。ホスト名の情報（例：esxi4-120bb6）は「名称」の項目に入力してください。
登録するユーザ名は、rootアカウントまたはrootアカウントと同等の権限を持つユーザアカウントを設定してください。
各情報を入力後は「サーバへの接続確認」ボタンを押してアクセスが正しく行えることを確認してください。
(正しく行えた場合、以下のメッセージが表示されます。)



- (6) MAC addressはExpress5800/BladeServerのLANポートのMACアドレスを入力してください。MAC addressは「00-00-4c-71-00-01」のように、数値の間を「-」で区切ってください。
- 連動サーバの起動は、制御端末からWake On LANパケットを受信して行われます。この際、制御端末から連動端末へのWake On LANパケットは、ブロードキャスト・アドレス宛に送信されます。このため、制御端末の監視対象となる連動端末は、制御端末と同じネットワークセグメントで構築されている必要があります。
- また、AFT(アダプタ・フォールト・トレラント)によるチーミング設定またはvIOによる仮想MACの設定を行っている場合、いずれかの物理的なMAC addressを登録する必要があります。物理MAC addressと異なるユニークなMAC アドレスを割り当てた場合、Wake On LAN による運用は行えません。
- (7) シナリオ情報(Install)の設定値は“サーバ種別”を選択した際に自動設定される値から変更しないでください。
- (8) シナリオ情報(設定パラメータ)のネットワーク情報の空欄部分を入力します。
- (9) [ESMPRO/ACBlade サーバ情報]画面の[OK]ボタンをクリックして、[ESMPRO/ACBlade AMC管理オプション画面]に戻った後、制御サーバまたは連動サーバに割り振ります。画面中央にある上の[<-]ボタンをクリックすることで制御サーバに、下の[<-]ボタンをクリックすることで連動サーバに割り振ることが出来ます。
- ESMPRO/ACBlade 管理オプションをインストールしたサーバ(選択中のサーバ情報に「Blade管理」と表示)は制御サーバに移動します。
- ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプションをインストールしたサーバ(選択中のサーバ情報に「Bladeマルチサーバオプション」と表示)は連動サーバに移動します。
- (10) Express5800/BladeServerに対して、(3)から(9)の操作を行った後、[終了]ボタンをクリックすると、以下の画面が表示され、[はい]をクリックすると、AMCの画面が起動されます。



- (11) 異なる電源制御グループにExpress5800/BladeServerを登録する場合は、新たに電源制御グループを作成し、(2)から(10)の操作を行います。
- (12) システム構成に応じて、UPS装置、Express5800/BladeServer以外のExpressサーバ、連動装置の登録を行います。これらの装置の登録方法に関しては「ESMPRO/AC Enterprise Ver5.0 セットアップカード」を参照願います。
- (13) AMC画面で[ファイル]→[設定保存]を選択して、設定情報を保存します。
- (14) ESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)がインストールされており、制御サーバとして使用する場合は、OSを再起動します。
- (17)に進みます。
- (15) ESMPRO/ACBlade 管理オプション (リモート管理モジュール)だけがインストールされている場合は、AMCを終了すると、マルチサーバ構成データ編集ツールが表示されます。

マルチサーバ構成データ編集ツールの[編集データファイルの送信/受信]ボタンをクリックして、ESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)がインストールされているサーバに、マルチサーバ構成ファイル(ac_e_net.cfg)を送信します。マルチサーバ構成データ編集ツールの操作方法是マルチサーバ構成データ編集ツールのヘルプを参照願います。

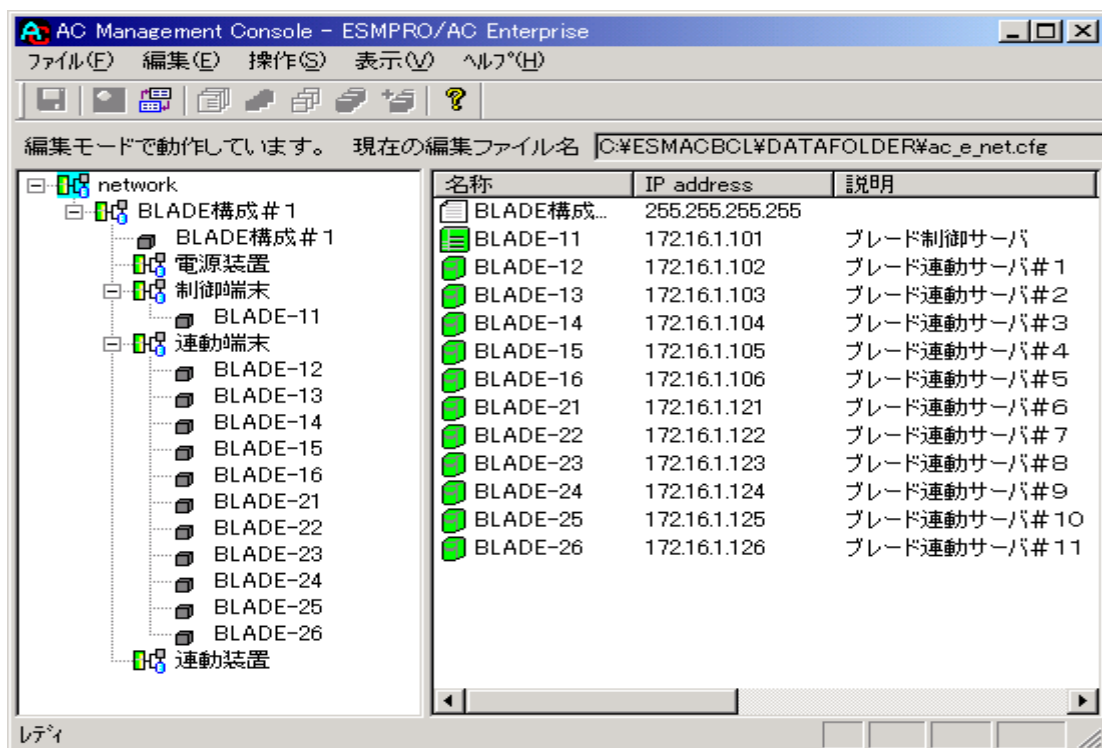
- (16) マルチサーバ構成ファイル(ac_e_net.cfg)を受け取ったESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)がインストールされているサーバのOSを再起動します。
- (17) ESMPRO/ACBlade 管理オプション(サーバモジュール)がインストールされているサーバでAMCを起動し、Express5800/BladeServerの状態表示が「マスタ動作中」または「通常運用中」であれば登録が完了です。

第5章 Express5800/BladeServer を使ったマルチサーバ構成例

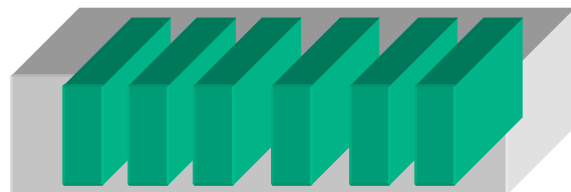
Express5800/BladeServer では UPS を接続せずにサーバの自動運転を実現するなど、従来のマルチサーバ構成には存在しなかった構成をサポートしています。ここでは Express5800/BladeServer を含めたマルチサーバ構成例、ならびに AMC の構成図を掲載します。

5.1 構成例（1）

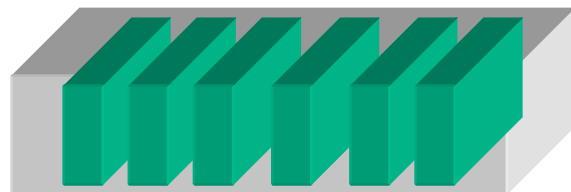
UPS を接続せず、制御サーバが Express5800/BladeServer 1 台、連動サーバが Express5800/BladeServer 11 台



ブレード収納ユニット # 1
BLADE-11 から BLADE-16 まで格納
BLADE-11 が制御サーバ

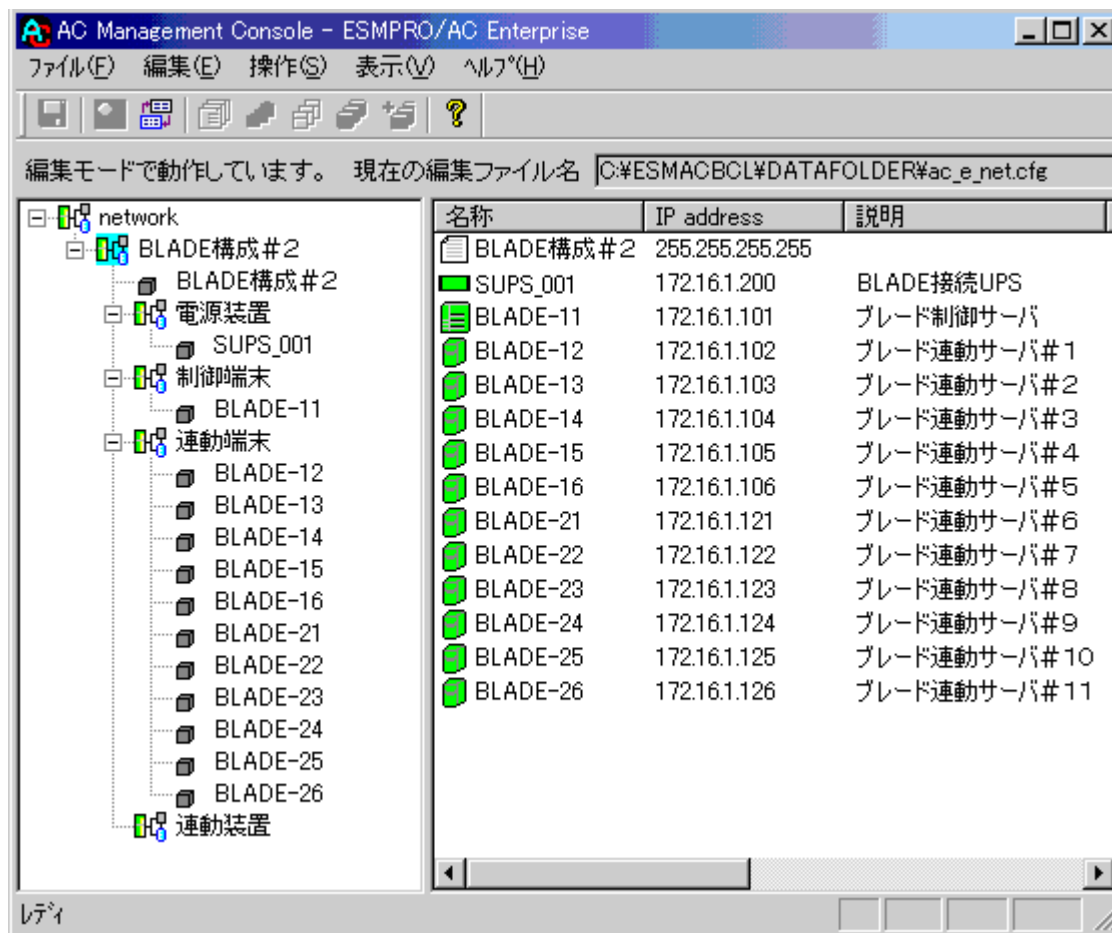


ブレード収納ユニット # 2
BLADE-21 から BLADE-26 まで格納



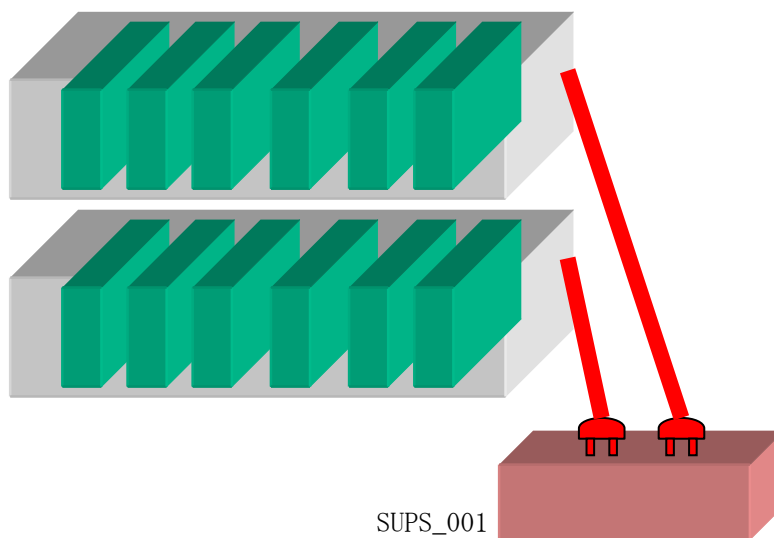
5.2 構成例（2）

制御サーバが Express5800/BladeServer 1 台、連動サーバが Express5800/BladeServer 1 1 台。
2 台のブレード収納ユニットを 1 台の UPS に接続。



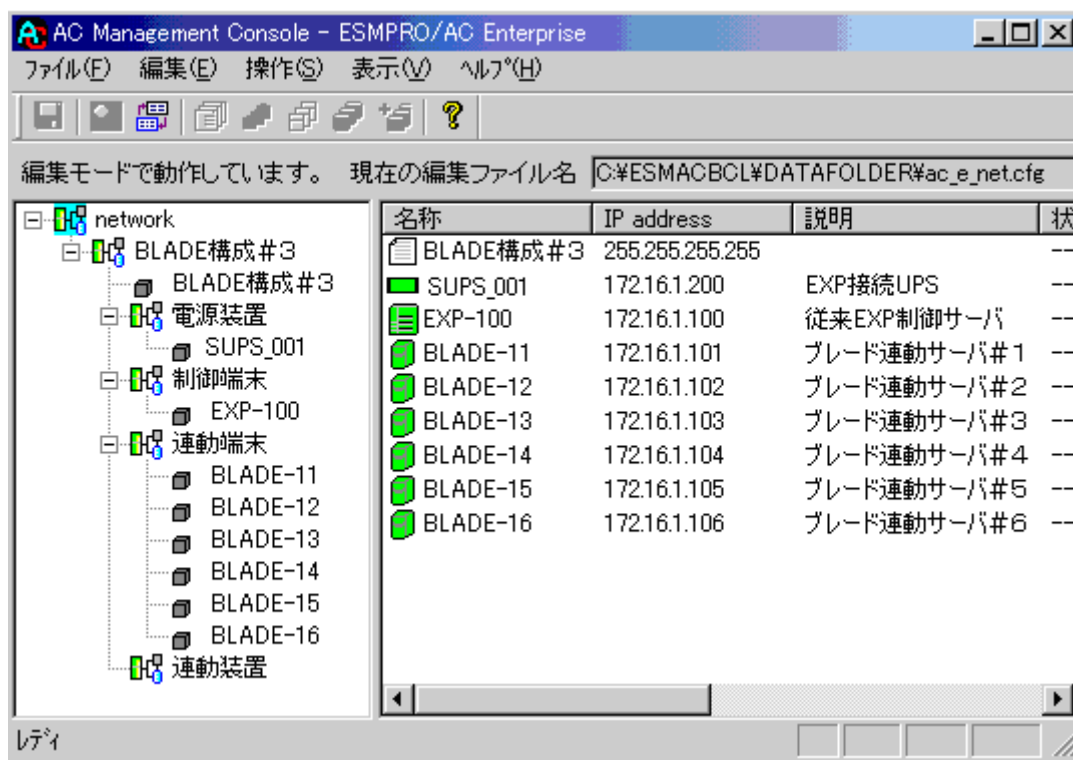
ブレード収納ユニット # 1
BLADE-11 から BLADE-16 まで格納
BLADE-11 が制御サーバ

ブレード収納ユニット # 2
BLADE-21 から BLADE-26 まで格納



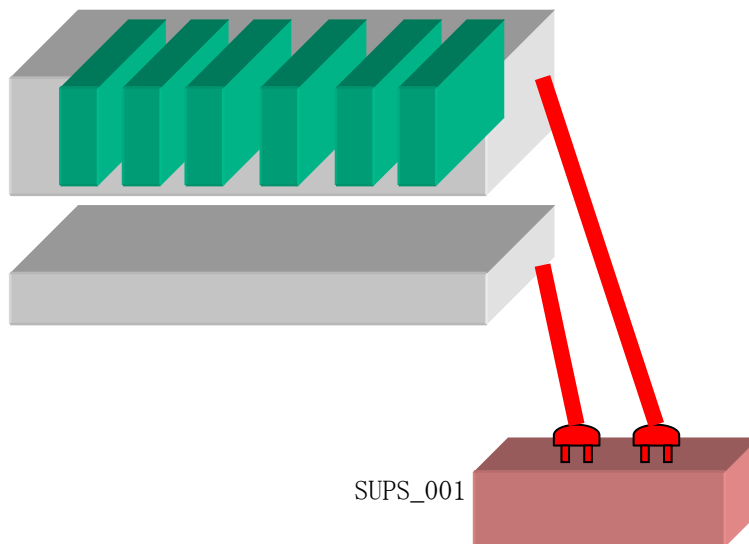
5.3 構成例（3）

制御サーバは従来の Express サーバ。連動サーバは Express5800/BladeServer が 6 台。従来の Express サーバとブレード収納ユニットを 1 台の UPS に接続



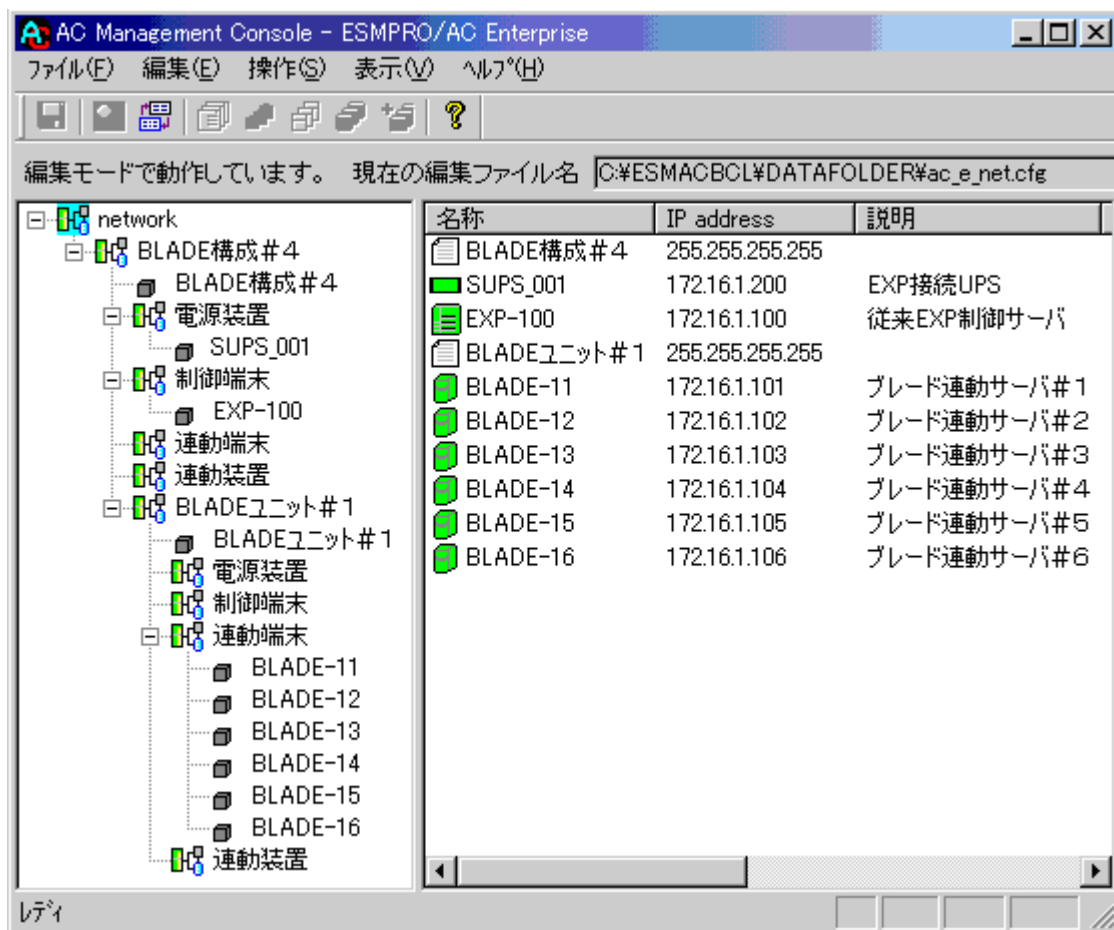
ブレード収納ユニット # 1
BLADE-11 から BLADE-16 まで格納
全て連動サーバ

従来の Express サーバ
EXP-100 が制御サーバ



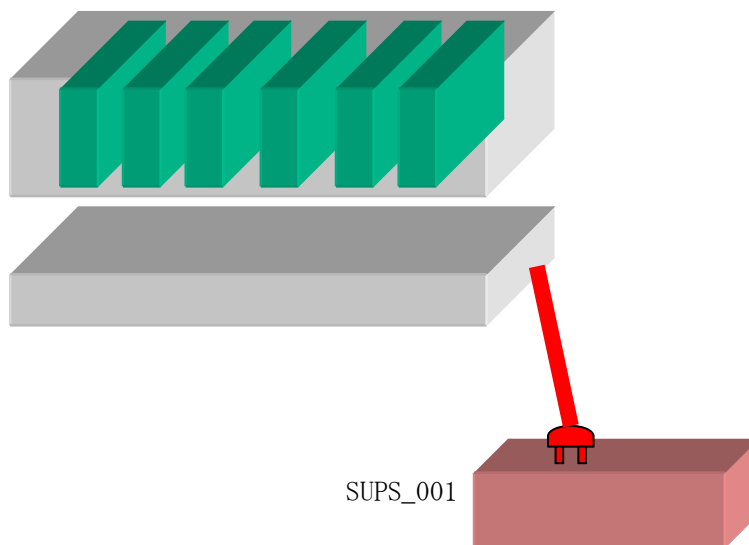
5.4 構成例（４）

制御サーバは従来の Express サーバ。連動サーバは Express5800/BladeServer が 6 台。従来の Express サーバを UPS に接続、ブレード収納ユニットには UPS を接続しない。



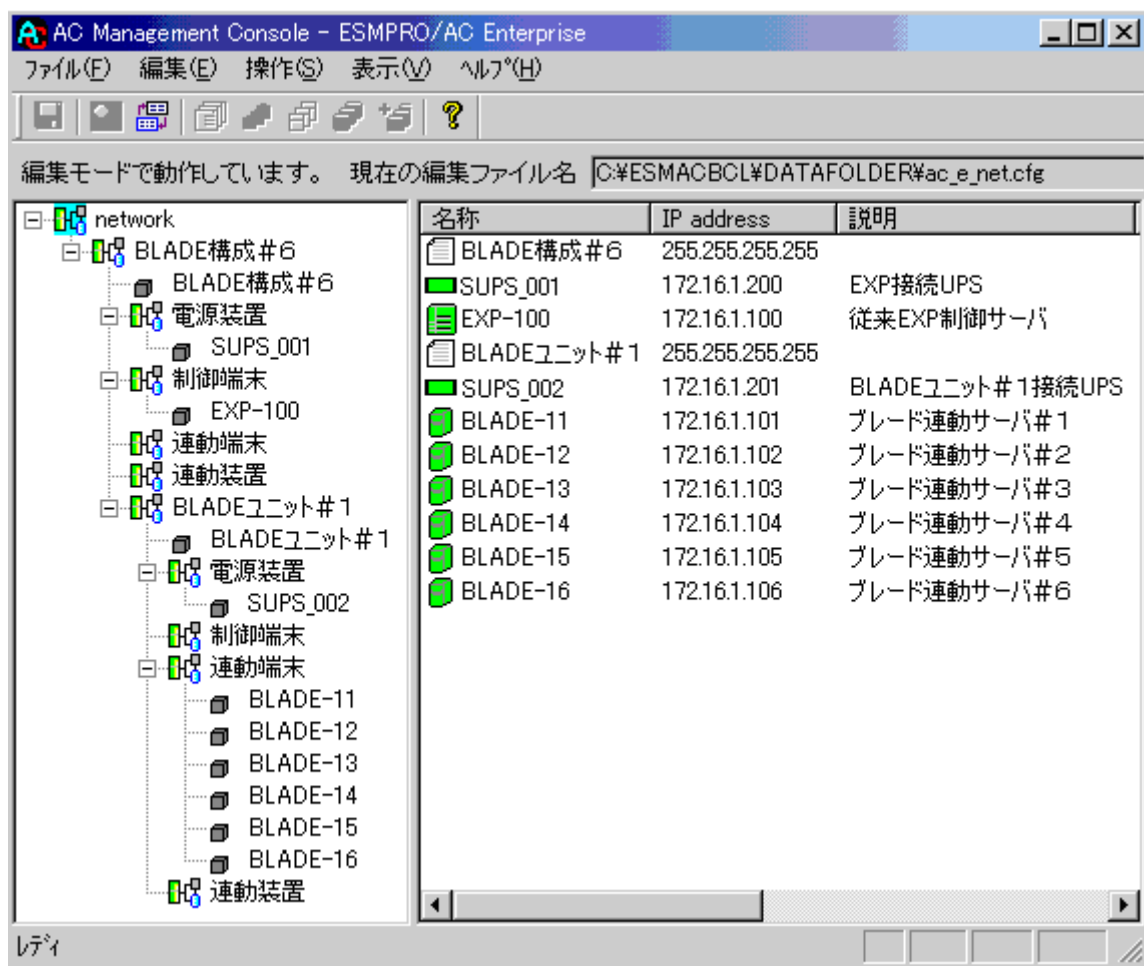
ブレード収納ユニット # 1
BLADE-11 から BLADE-16 まで格納
全て連動サーバ

従来の Express サーバ
EXP-100 が制御サーバ



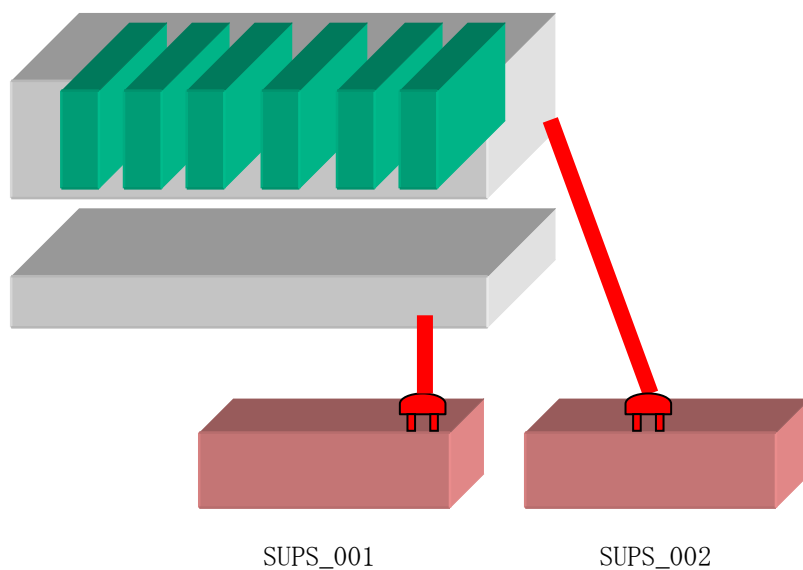
5.5 構成例（5）

制御サーバは従来の Express サーバ。連動サーバは Express5800/BladeServer が 6 台。従来の Express サーバを UPS に接続、ブレード収納ユニットには別の UPS を接続する。



ブレード収納ユニット # 1
BLADE-11 から BLADE-16 まで格納
全て連動サーバ

従来の Express サーバ
EXP-100 が制御サーバ



第6章 DeploymentManager を使ったインストール方法

DeploymentManager のアプリケーション自動インストール機能を使用すると、ブレードサーバの電源制御に対応した以下の製品をインストールすることができます。

<制御端末パッケージ>

- ESMPRO/AutomaticRunningController
- ESMPRO/AC Enterprise
- ESMPRO/ACBlade 管理オプション

<連動端末パッケージ>

- ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプション

以下、DeploymentManager で使用するインストールパッケージの作成手順を説明いたします。
DeploymentManager 操作手順の詳細については、「DeploymentManager ユーザーズガイド」を参照してください。

注意：

DeploymentManager を使用して自動インストールを行った場合、インストールしたパッケージに含まれる製品のライセンスキー登録が別途必要となります。

ライセンスキーの登録は、制御端末パッケージをセットアップしたサーバ上の[スタート] → [すべてのプログラム] → [ESMPRO/AutomaticRunningController] → [ESMPRO_AC ライセンス]から行ってください。ライセンスキーの登録方法については、ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップカードを参照してください。

- (1) 「ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.0」 CD-ROM 媒体を CD-ROM ドライブにセットしてください。
- (2) 「DeploymentManager」 → 「イメージビルダ」を起動します。
- (3) パッケージの登録／修正を選択します。
- (4) 「ファイル」 → 「Windows パッケージの作成」を指定します。
- (5) 「基本」タブに情報を入力します。
タイプは必ず”アプリケーション”を指定してください。以下、登録例を示します。

(例)

<制御端末の場合>

パッケージ ID : Master-Win
会社名 : NEC
リリース日付 : 2012/10/23
パッケージ概要 : ESMPRO/AC 5.0 制御端末(Windows)
タイプ : アプリケーション
緊急度 : 一般
表示名 : ESMPRO/AC5.0 制御端末(Windows)
表示バージョン : 5.00

<連動端末の場合>

パッケージ ID : Slave-Win
会社名 : NEC
リリース日付 : 2012/10/23
パッケージ概要 : ESMPRO/AC 5.0 連動端末(Windows)
タイプ : アプリケーション
緊急度 : 一般
表示名 : ESMPRO/AC5.0 連動端末(Windows)
表示バージョン : 5.00

(6) 「実行設定」タブに情報を入力します。

● 「コピーするフォルダ」グループの設定

フォルダ名には CD-ROM ドライブ直下を指定し、「追加」ボタンを選択します。

CD-ROM ドライブ:¥

● 「インストール」グループの設定

実行ファイル

以下のモジュールを指定します。

CD-ROM ドライブ:¥acbsetup.exe

セットアップパラメータ

作成するパッケージが制御端末か連動端末かによって、指定するセットアップパラメータも異なります。以下を参照し、セットアップパラメータを指定してください。

<制御端末の場合>

-ACBE

<連動端末の場合>

-ACBM

(7) 「対応 OS と言語」タブに、以下の情報を入力します。

OS : ALL OS

言語 : Japanese

(8) 「OK」ボタンを選択し、「Windows パッケージの作成」画面を終了します。ここまでの操作により、DeploymentManager に ESMPRO/AutomaticRunningController のパッケージが登録されます。

(9) DeploymentManager を起動し、(8)までの操作で登録したパッケージ ID を指定してシナリオを新規作成してください。これで登録作業は完了です。